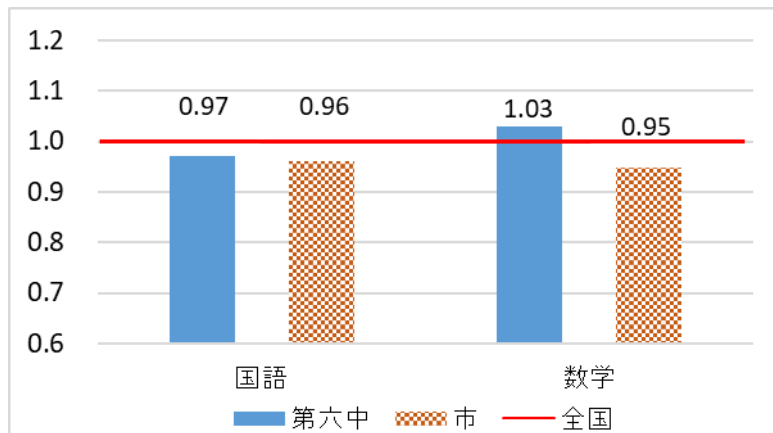


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第六中学校区 第六中学校

第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

平均正答率の全国比は0.97であったが、「読むこと」の領域に関しては全国平均を上回った。引き続き、朝読書をはじめ、ビブリオバトルなど、積極的に取り組んでいく。その他の領域に関しては、ディベートなどの言語活動を意識した指導を行っていく。

【数学】

平均正答率の全国比は1.03あり、全16問中、12問全国平均を上回った。特に、「数と式」の領域の、「整式の加法と減法の計算ができる」では全国平均よりも約10ポイント上回っている。全国平均以下の4問中、3問が「記述式問題」であり、数学的に説明するための指導を強化していく。

【質問紙調査】

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では全国平均よりも高く、ディベート教育に積極的に取り組んだ結果だと考える。

「学校の授業以外に、普段（平日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問では、3時間以上が23.5%（全国12.3%）、全くしないが8.0%（全国3.5%）と2極化している。

○学力向上の取組

【中学校区】

小学校での漢検の実施や専科授業・教科担任制の導入、さらに中学校教員による小学校への出前授業など、中学校区三校で連携した取り組みを行っている。小中学校の学習体制の段差を解消するシステムづくりや様々な会議を通して、各教科の課題や対策を共有し、校区の子どもの実態把握に努めている。

【学校】

授業において、タブレットの活用、ディベート、グループワークなど、話し合いや発表の場を適宜入れ、「考える力」の育成を図り、「主体的、対話的で深い学び」の授業づくりを実践している。

また、「ロイロノートの活用法」や「ディベート」「授業力向上」に関する校内研修を定期的実施している。